



いずみさの昔と今 第233回

「泉佐野のお宝大集合」 様々な職人を描いた絵巻③

今回紹介する資料は、「職人尽絵巻」という絵巻物です。「職人尽」とは、様々な職人を並べて紹介するという意味です。

ここには、多くの職人が描かれていて、主なものとして、繪物師、塗師、船人、博打打ち、紺搔、筵打などがあります。「博打打ち」など現在の感覚では職人といえないような人々もここでは職人に含まれています。職人の衣装は、烏帽子や直垂姿などが多く、これらは中世（室町・戦国時代）のものです。

写真の職人は、「轆轤引」と「針磨」です。轆轤引は、轆轤（回転により加工・造形する道具）を用いて椀や盆などを作る職人です。一緒に子どもが描かれています。これはおそらく轆轤引の子で、仕事の手伝いをしているのでしょう。また、針磨は縫針を作る職人です。絵の中では針を研いでいるのでしょうか。奥にあるのはマイギリといい、縫針に孔を開ける道具です。

写真を見てみましょう。2人の職人が左右に分かれて、それぞれ2首（さらに左右）の和歌

が添えられています。これは、和歌の優劣を競いあうもので、これを「歌合」といいます。判定は、判者と呼ばれる人が下し、あわせて判定の理由（これを判詞と呼びます）を記しています。絵を見る限りでは、ここに描かれた職人たちが和歌を詠んでいるように見えますが、そうではありません。実際に歌を詠んだ歌人は、おそらく貴族や僧などであったと考えられます。ではなぜこのような形式をとるのでしょうか。その理由を説明するためには、もう少し資料に踏み込んでみる必要があります。

まず、轆轤引の絵の右側に記された、左右2首の和歌をみてみましょう。左は、「針のように身も心も細る恋」の歌で、右は「轆轤を引いても君に会（逢）いたい」（当時の轆轤は人力で回っていて、とても大変な作業でした。）という意味の歌です。このことからわかるように、競いあう和歌のテーマが、「針のように」（針磨）、「轆轤を引いても」（轆轤引）と、それぞれの職人が作っていたり使っていたりする道具にかけて

いることがわかります。このように、ここに描かれている職人たちは、あくまで和歌に付随して描かれているにすぎないのですが、一方この資料は、今では当時の職人たちの様子を知らることができる貴重な絵画資料となっています。



「職人尽絵巻」の轆轤引と針磨

企画展講演会

新発見！食野家・唐金家 ～新しく収集した資料から～

企画展「泉佐野のお宝大集合」の展示資料などから、近世泉佐野の豪商食野家・唐金家の実像に迫ります。

日時 5月24日(日) 午後1時30分～3時

場所 レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの 研修室

講師 森 昌俊（歴史館いずみさの 学芸員）

資料代 300円

申込 5月2日(土)以降に

※講座終了後、企画展の展示解説を行います。

春の絵図ウォーカー

水路やため池の風景を歩く

(全2回)

江戸時代に描かれた村絵図をもとに、市内の史跡を歩きます。

●第1回「上之郷村絵図の水路ぞいを歩く」

開催日 5月14日(休)

集合・解散場所 JR「長滝」駅前

●第2回「上瓦屋村の池絵図を歩く」

開催日 5月28日(休)

集合・解散場所 JR「熊取」駅前

いずれも

時間 午後1時30分～4時

※少雨決行

定員 30人（先着順）

資料代 100円

申込 5月2日(土)以降に

레이크アルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの

☎469-7140 Fax469-7141

休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）

開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

入館料 無料